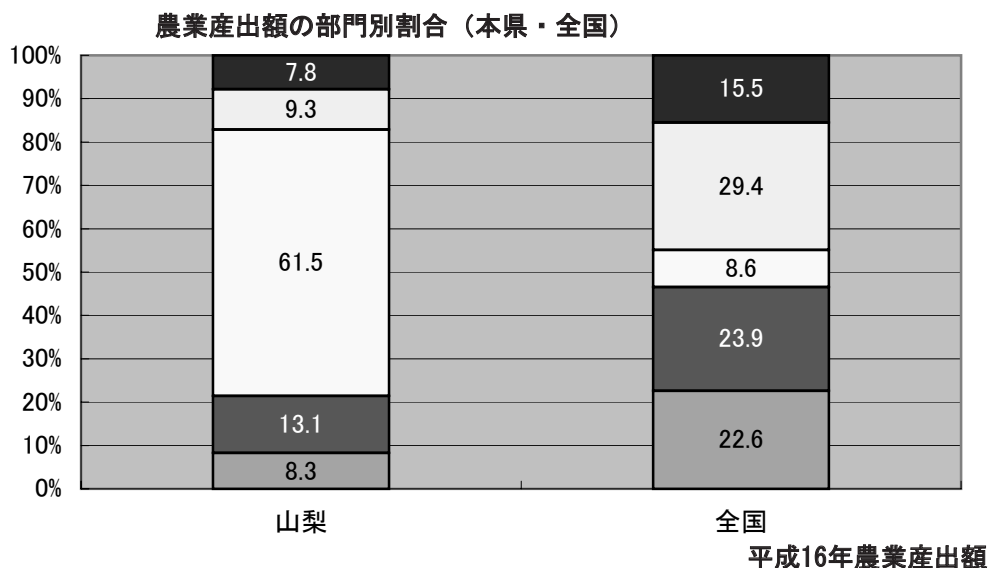


2 農林畜水産業の状況

○ 農林畜水産業の状況

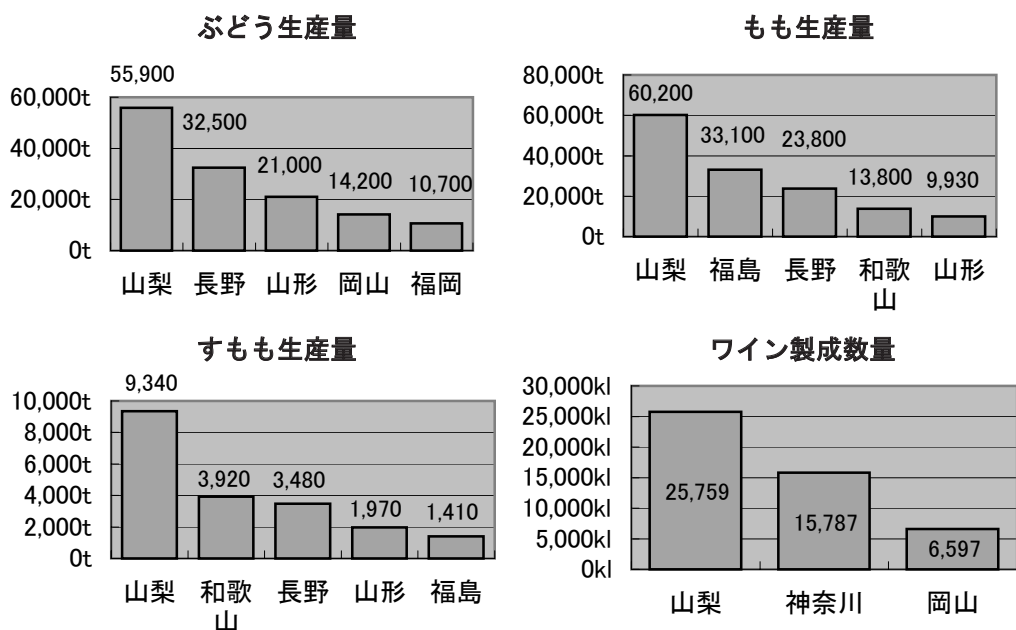
本県の農業は、狭い耕地を最大限に生かした集約的な農業が展開され、土地生産性（耕地10a当たりの生産農業取得）は、常に全国上位となっている。

農業産出額の部門別割合を見ると、果実が61.5%、野菜が13.1%、畜産が9.3%の順となっている。



● 果樹

本県では、落葉果樹の栽培に適した自然条件を最大限に生かして、生産量日本一のぶどう、もも、すももをはじめ、おうとう、かき、りんご、うめ等多種多様な果実が生産され、「果樹王国山梨」の名を全国に広めており、市場や消費者から高い評価を得ている。また、ワインの生産量も日本一を誇っている。

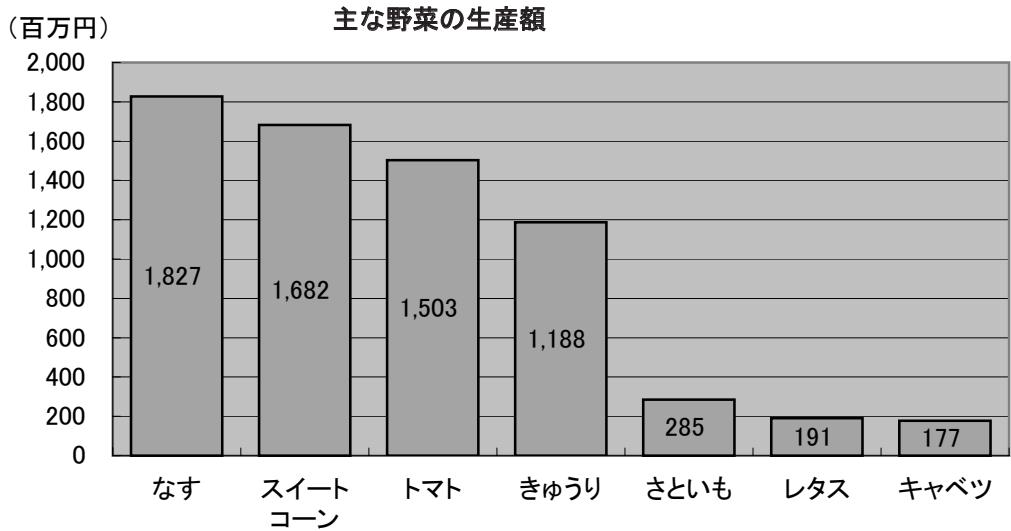


平成17年農林水産統計
平成16年国税庁資料

● 野菜

本県の野菜は、甲府盆地周辺、峡北地域、富士北麓地域を中心に、立地条件や自然条件を巧みに生かしながら、特色ある産地が形成されている。

なすやスイートコーンは、全国シェアの上位を占め、清流を利用して生産されるクレソンは、全国1位である。

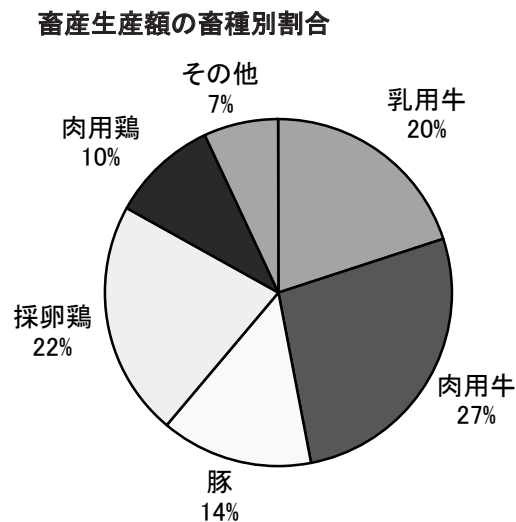


平成17年山梨県農業生産額実績

● 畜産

本県の畜産は、峡北地域や富士西麓地域において、立地条件を生かした酪農、肉用牛、鶏等の産地が形成されている。また、甲府盆地周辺では、鶏、豚、肉用牛の大規模な経営が営まれている。

甲州牛、甲州ワインビーフ、麦芽ビーフや系統豚「フジザクラ」を利用した「フジザクラポーク」、甲州地どりの銘柄化をはじめ、手作りハム等の高品質畜産食品の開発等が進められている。



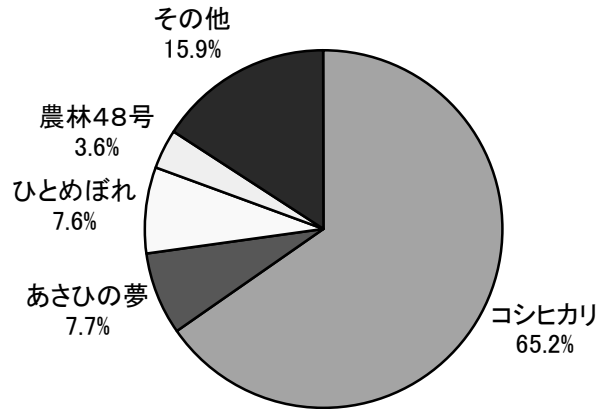
平成17年山梨県農業生産額実績

● 米

本県の稲作は、峡北地域を中心に、甲府盆地周辺・富士北麓地域で多く生産されている。

優良品種の導入や栽培改良に取り組んだ結果、峡北産の「コシヒカリ」は、全国の食味ランキングで高い評価を受けている。

水稻作付面積の品種別割合

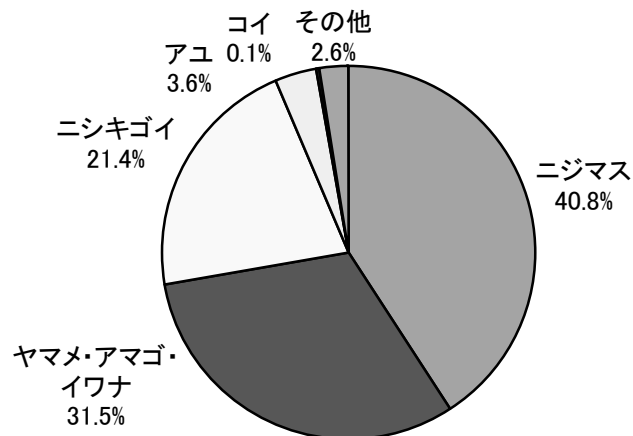


平成17年山梨農政事務所資料

● 水産

本県の水産は、周囲の山々を源とする清流や湧水を利用したニジマスやヤマメ等の養殖や温泉水を利用したニシキゴイの養殖、河川湖沼でのアユ・ワカサギ等を対象とした釣りが主であり、特に本県のニジマスの養殖生産量は全国第3位となっている。

水産生産額の魚種別割合



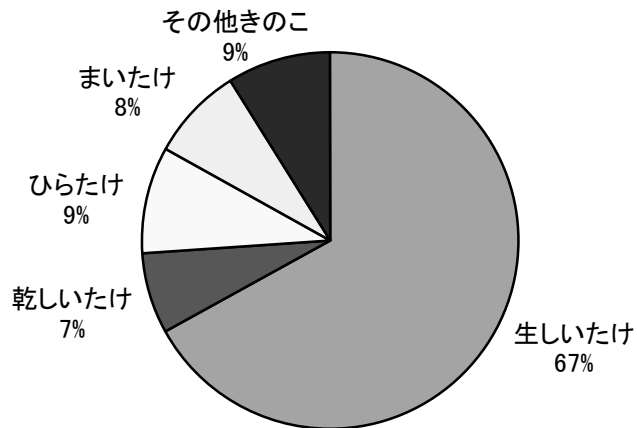
平成17年山梨県農業生産額実績

● 特用林産

本県の特用林産は、代表的なものとして、生しいたけは峡北地域、乾しいたけ・たけのこは峡南地域、わさびは県東部で多く生産されている。

県内林業粗生産額の6割を占める特用林産は、農山村地域の所得の向上に貢献している。

栽培きのこ類生産額の品目別構成割合



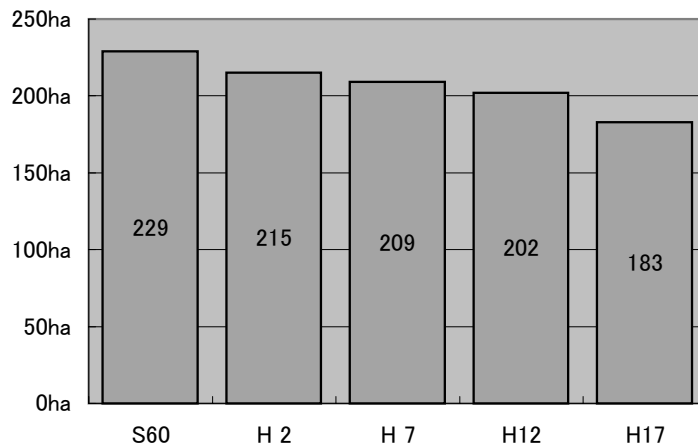
平成17年山梨県森林環境部資料

● 特用作物・地域特産品

本県の茶栽培面積は、平成17年183haで、その大部分は峡南地域で栽培されており、優雅な味と香り、豊富なビタミンCを含み「甲斐のみどり」の銘柄で消費者の好評を得ている。

また、近年、地域の顔となる農産物の生産やその加工品づくりが行われ、農村の女性グループを中心に、地域食材を活用した郷土料理の伝承や山菜及びその加工品、味噌、菓子等の新たな特産品が生まれている。

茶栽培面積の推移



[各年]農林水産統計

<参考> 「ふるさとの味」 伝承活動の状況

「あんびん」 (六郷特産品加工グループ)



「あんびん」の「びん」は「餅」つまり「べい」の転訛したもの。

さつま芋を粉にしたもの又は細かくきざんだものを、小麦粉に混ぜてあん状にし、これを餅のようにしたことから、あんびんという。峡南地域で盛んに作られた。

「みみ」 (鯉沢町十谷地区郷土料理研究会)



鯉沢町の十谷地区に伝わる、小麦粉をねって箕の形をつくり、野菜と一緒に煮るもので、「福箕」(ふくみ)の奉納に由来する郷土料理。

「おやき」 (鳴沢村農業協同組合加工部会「樹型の里」)



甲府盆地周辺では小麦粉を、富士北麓地域では主にもろこし粉を皮にして、中にいろいろの野菜をあんとして入れ、時間をかけて焼いたもの。

「せいだのたまじ」 (ふるさと長寿館料理・特産加工部会)



上野原市桐原地区に古くから伝わる料理。小粒の皮付きじゃがいもを味噌仕立てで長時間煮つ転がしたものだ。

江戸時代の大飢饉の際、中井清太夫(甲斐の名代官)が村人に作らせ飢饉を救ったことから、じゃがいもを「せいだ」と呼び、「たまじ」は小さな玉じゃがいものこと。